

中学校第1学年 国語科学習指導案

1. 単元名

視点を変えさせる言葉がある ～ポスター発表を通じた意見の交流～

教材：「生物が消えていく」 高槻成紀（学校図書1年）

2. 単元のねらい

（1）国語科としての目標

- 視点を切り替える言葉を見つけ、事柄をより深く捉えるための方法を理解する。
- 対比されている言葉に気づき、筆者の意見を読み取る。
- 実社会の出来事に転移させ、事柄について考察する。

（2）汎用的スキル

- 他者の意見に耳を傾け、多様な視点があることを認め、自分自身の意見をメタ認知し、新しい意見を再構築できる。（批判的思考力、メタ認知力）

（3）態度・価値

- 自分とは異なる意見や視点があることを認め、異なる意見の人と対話することの大切さを感じることが出来る。（他者に対する受容・共感・敬意）

3. 生徒の実態

中学校1年生は、最高学年として小学校生活を終え、新たな学校生活の中で新しい仲間と出会い、気の合う友人を見つけようと試行錯誤しながら日々を過ごしている。思春期に入り、他者とは異なる自分自身を客観的に観たり、自意識と客観的事実との違いに悩んだり、身近にいる大人を批判的にみることも始まる。

生徒の実態としては、附属小学校から来た生徒や他校からの生徒、海外体験が長い生徒や来日生もいる。生育歴や受けてきた教育歴も様々である。自分とは異なる意見や考え方、価値観に遭遇することは、日常的である。校内でも、友人との関わりの中で、異文化と遭遇し、戸惑うことは数多くある。生徒は、新しい考え方やものの見方があることを実感し、戸惑いながら新しい関わりをつないでいこうとする。違いを感情的に受け止めるのではなく、ものの見方を変えて、自分とは異なる意見や考え方、価値観があることをみとめ、自分自身の考えや意見を分かりやすく伝え、新しい考え方を創っていくことが大切であることを学んでいく。本校はIB教育を取り入れており、中学1年生から高校1年生までは、MYP教育（Middle Years Programme）を取り入れており、ディスカッションやプレゼンテーション、探究活動が重要視されている。生徒は入学後、様々な教科や行事でこの活動方法に触れている。

授業づくりでは、「視点」ということを焦点にディスカッションやプレゼンテーションをしたい。社会の中で合理的・便利さを求めて起こっている様々な出来事や事柄へのディスカッションでは、様々な意見があがるだろう。クラスの中には自分とは異なる様々な視点があることを先ずみとめることが、自分の視野を広めることを伝えたい。色々な意見や考え方を知った上で自分自身の意見を再構築ができることを体験させたい。色々な視点があり、様々な考え方があることで自分自身の考え方や意見が深まることを知るであろう。この授業を通して、ものの見方をまなぶことがねらいである。

4. 単元について

①教科から見た特性

本単元で使用する高月成紀「生物が消えていく」には、辻仁成「ミラクル」がリード文として付いている。筆者が、視点を切り替えることによって、何をどのように深められるようになったかが書かれている。本文「生物が消えていく」において、どのような言葉によって、視点が切り替えられ、事柄が深められるようになったかを理解することが求められている。筆者が言葉を吟味しながら、視点を変え、どのような意見を構成しているのか検討することで、視点の変化から内容が深まっていることに気付くことができる。本文では、日本の農村文化の変化について述べられている。合理性・便利さという観点で、「植物工場」について図書館の参考図書を使用し、グループで調べ学習をおこなう。クラスを「植物工場」について賛成派・反対派に分けてそれぞれポスターを作成し、プレゼンテーションをおこなう。ディスカッションを行い、意見や考え方を再構築しレポートに表す。社会に目を向け、合理性・便利さという観点で実社会に出来事を考察する。

②汎用的スキルや態度・価値育成からみた特性

「植物工場」に対して、様々な意見が予想される。自分とは違う考え方のプレゼンテーションを聞き、異なる視点があることに気付くことは、自分の意見をメタ認知し、批判的思考力を高めるといえる。ディスカッションでは、相手の意見を経緯を持って踏まえたうえで、自分の疑問を相手に分かりやすく伝える体験をする。自分と異なる視点が、自分の視野を広げ深めることに気付く体験をすることが、相手の意見への敬意

となり、他者をみとめる受容的な姿勢を育むと考える。

5. 単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全7時間 本時7／7時間）

時	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (2時間)	1) リード文から、視点の切り替えに気づくことが、筆者の意図を深く知ることになることを捉える。 2) 本文から、筆者の視点の変化を捉える。 3) ・どの言葉が、視点の変化をもたらすか把握する。 ・対比されている事柄をつかみ、筆者の主張を捉える。	○批評的思考力	○思考錯誤が可能な場の設定
第2次 (3時間)	1) 「植物工場」について図書館からの参考図書を参照し、調べ学習をする。 2) クラスを6グループにし、賛成派と反対派に分けて、自分たちの主張の根拠が表れるポスターを作成する。	○協働する力	○事前知識をもたせる ○協働が生まれやすい活動・ルールの設定 ○可視化ツールの用意
第3次 (2時間)	1) ポスター発表をおこなう。 2) 賛成派グループ1班と反対派グループ1班がペアになり、ディスカッションをおこなう。 3) 振り返りをおこなう。	○批判的思考力 ○メタ認知力 ○他者に対する受容・共感・敬意	○他者との学び合いの設定 ○多様な視点から考え、異なる考え方があることに気付く場の設定

7. 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・異なった視点に触れて自分の考え方をメタ認知することが、ものの見方を広げ深めることができる。

(2) 本時の展開

	○学習内容 ・ 予想される生徒の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 5	視点を換えさせる言葉がある ～違う意見にふれる時、ものの見方はひろがっていく。～ ○ポスター発表の留意点を示す。	
展開 30	○賛成派と反対派が一班ずつペアになり、ポスター発表をする。 ・反対意見は、こんなふうを考えているんだ。 ○ディスカッションをして、互いの疑問点を明らかにする。 ・賛成派は、人工的に効率よく温度・水・光の設定がなされ、植物が効率よく生産される。・価格も安く、害虫の心配もない。・反対派は、自然の中で育つ植物が人工的に生産されるなんておかしい。・均一に野菜が取れるなんて不自然だ。	◇ポスターにすることで、根拠を可視化し、メタ認知することができる。 ◇自分達とは異なる意見や観点を聞いて、気付いたことをメモをし、可視化する。 ◇多様な意見を聞き、新しい意見はないか自分の意見をメタ認知し、新しい意見はないか試行錯誤の場の設定 ◆意見を論理的に示し、ものの見方を広げたり深めたりしている。(観察)
まとめ 15	○ディスカッションのプロセスについて振り返りをする。 ・同じ意見は安心できて聞くことができた。 ・違う意見を聞いている時、本当にそれでいいのかと思った。でも、そういう視点もあったのかと思って、メリットもデメリットもあるんだなあと思った。・どちらの視点も一理あるような気がした。・賛成、反対っていうよりも地球の将来について考えさせられた。	◇多様な視点から考え、異なる視点から考える場の設定 (他者に対する受容・共感・敬意) ◆異なる意見を持つ他者の意見に対する気持ちの変容をメタ認知しているか。 (ふりかえりのプリント)